Aichi Cancer Center News

がんセンターNEWS
Aichi Cancer Center News

第60号
平成29年春発行

発 行
愛知県がんセンター
Tel. 052-762-6111㈹

13年ぶりに故郷に戻って

愛知県がんセンター副総長
髙橋　隆

この度、愛知県がんセンターの副総長を拝命いたしました。私は、名古屋大学医学部を卒業後、９年間ほど外科医として過ごしました。卒後６年目に胸部外科に帰局した直後から、当時愛知県がんセンター研究所にあった高橋利忠先生（名誉総長）と上田龍三先生（名市大名誉教授）の研究室で、まさに研究のイロハから教えていただきました。米国国立癌研究所への留学を経て、愛知県がんセンター研究所に戻り、研究者として伸び盛りの14年間をここで過ごす幸運に恵まれました。2004年に名古屋大学に異動しましたが、こうして13年ぶりにがん研究者として生まれ育った“故郷”に戻る機会をいただき、感慨深いものがあります。

この間にがんの医療と研究を取り巻く状況は大きく変わりました。まさに、基礎、臨床を問わず、がんという難敵と対峙する私たちにとって、大きなチャンスが来ている時代です。愛知県がんセンターは、国立がん研究センターとほぼ同時期の1964年に設立されて以来、癌研究会、国立がん研究センターと並ぶ日本の３大がんセンターの一つとして、輝かしい歴史を築いてきました。しかし、その伝統に安住することなく積極的な攻めの姿勢で、近年のがん研究の驚異的な進歩をがん患者の皆さんへ還元していくことが、今の愛知県がんセンターに求められていると思います。そのためには、市中の中核病院はもちろん大学病院にも求め得ない、がんに関わる研究と医療の専門家が集結した comprehensive cancer center（総合がんセンター）としての強みを、産・学・官間の連携を強化しつつ最大化していく必要があります。

私たち愛知県がんセンターは、次の時代の総合がんセンターが果たすべき役割を強く認識しつつ、最新のエビデンスにもとづいた最良の医療を提供することはもちろんのこと、さらにがんの予防･診断･治療の革新の基盤となる新たなエビデンスを世界に向けて発信すべく、病院･研究所･運用部の職員一同が一体感を持って邁進いたします。最後に皆様の増々の暖かいご理解とご支援をお願い申し上げまして、就任のご挨拶に代えさせていただきます。

副院長就任のあいさつ

愛知県がんセンター
中央病院　副院長
清水　泰博

2017年４月より副院長を拝命しました消化器外科部の清水泰博です。わたしは1996年に消化器外科医長として愛知県がんセンターに赴任し、2011年からは部長を務めてきました。これまで21年間は専門領域である肝胆膵領域癌の外科治療に邁進し、成績向上ための外科治療法の開発、臨床試験の遂行に努めてきました。

このたび副院長就任に際して、丹羽康正院長から①外科系副院長として手術室の効率的な運用、②病診連携システムの充実という命題を頂きました。

おかげさまで当センターの手術件数は毎年増加し2016年は3,000件を突破しました。初診から１ヵ月程度で手術を行っておりますが、今後は迅速な対応が困難となることも危惧されます。現在計画中の手術室の増室に加え、手術可能な時間帯延長などの対策を外科系診療科、麻酔科、看護部と検討したいと思います。

病院で私が責任者を務めます地域医療連携推進部会では、各地区医師会での当センターの紹介や学術講演会の開催（年２回）を行ってきました。今後も引き続き連携医の先生方と「顔のわかる」信頼関係の強化に努めます。また昨年始めた電子カルテの公開（愛がんネット）を更に普及し、連携病院・診療所の先生方と患者情報を共有して治療や経過観察を行いたいと考えています。

今後も外来･手術と臨床現場で頑張りながら、副院長業務に精進する所存です。「紹介しやすい」、「迅速に治療（手術）できる」、「受診してよかった」病院を目指して職員共々頑張りますので、ご指導・ご支援を宜しくお願い致します。

血液・細胞療法部長就任のあいさつ

愛知県がんセンター
中央病院　血液・細胞療法部長
山本　一仁

平成29年４月１日付けで血液・細胞療法部長を拝命しました。平成17年９月に愛知県がんセンターに赴任して以来、血液がんを中心に診療をおこなってきましたが、振り返りますと、平成２年４月から平成７年６月までがんセンター病院および研究所に勤務しており、私の医師人生の半分以上をがんセンターで過ごしています。がんセンターに育てて頂いたと言っても過言ではありません。

私たち血液・細胞療法部は、その名前の通り、血液がんを中心とした血液疾患と細胞療法（造血細胞移植）を中心に診療をおこなっています。治療の方針を決める上で最も重要なことは、正しい診断をおこなうことです。幸いにして、当センターには、高度な技術を有する各診療科のみならず、研究所も併設されており、連携して最先端で専門的な診断がおこなえます。高度な技術による診断と最新・最先端の研究成果を踏まえた最善の治療法を提供する所存ですので、血液がんが疑われた場合に限らず、血液の異常やリンパ節の腫大を認めた場合には、気軽に受診して頂ければと思います。

私自身の気持ちとしましては、今度は育てて頂いたがんセンターに恩返しをする番であると思っています。血液・細胞療法部の医師のみならず、がんセンターの皆様と共に、これまでの伝統を大切にしつつも、最新・最先端の研究成果を取り入れて常に新しいことにチャレンジしながら、安心・安全な最先端の医療を提供することで愛知県がんセンターの発展に微力ならが尽力したいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

精神腫瘍科部長就任のあいさつ

愛知県がんセンター
中央病院　精神腫瘍科部長
小森　康永

平成29年４月１日より精神腫瘍科部長を拝命致しました小森康永です。平成26年度より緩和ケア部長として微力ながら尽力してきましたが、今回、がん医療において精神科医が果たすべき役割をより明確化した診療科部が新設されたため異動の機会を与えられました。新任の下山理史緩和ケア部長と共に緩和ケアセンターの運営をこれまで以上に活発化できるよう努力する次第です。

「精神腫瘍学」Psycho-Oncology とは、精神と腫瘍の相互作用を研究する学問領域です。主治医からの紹介理由としては、せん妄、適応障害、うつ病で８割ほどになります。

私が平成18年に本センターへ着任後、まず興味を抱いたのは、余命半年の患者さんが大切な人に最後のメッセージを残すのを援助する実践、ディグニティセラピーでした。その後、研究実践としては、患者さんの時間感覚に関する心身医学的アプローチ、医療スタッフのメンタルヘルスケアとしてのナラティブ・オンコロジー、さらにはご家族への心理教育アプローチ（『はじめよう！　がんの家族教室』日本評論社、2015）などへと展開しています。今後とも、みなさまのニードに合った実践を継続できればと思います。温かいご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

緩和ケア部長就任のあいさつ

愛知県がんセンター
中央病院　緩和ケア部長
下山　理史

2017年４月１日付にて緩和ケア部長を拝命いたしました下山理史と申します。

歴代部長には篠田雅幸先生、細田蓮子先生、小森康永先生が名を連ねられており身が引き締まる思いです。新設の精神腫瘍科部長小森康永先生にご指導仰ぎつつ、緩和ケアセンターGM向井未年子がん看護専門看護師はじめ緩和ケアチームメンバーとともに、緩和ケア診療を進めて参りたいと存じます。

がん対策基本法成立より10年が過ぎ、昨年末その改正が行われました。その第三章第二節第十五条では、「…手術、放射線療法、化学療法、緩和ケア…」と従来の３大治療に並び緩和ケアが明文化されました。３大治療との最大の相違点は、患者さんご家族はいつでもどの時期どの状況でも、基本的にどの医療者からでも随時受けられるということです。

その人らしい生活を支えるのが緩和ケアです。どの医療者・介護者でも一般的な緩和ケアは提供できるようになりつつあります。私達は単に痛みのチームということでなく、より専門的に幅広く症状を和らげる工夫をしつつ暮らしを支える専門チームとして病院内だけでなくこの地域の皆様のお役にたてればと思います。また緩和ケアでは患者さんご家族だけでなく医療・介護者自身のケアも大切にしています。日ごろ医療・介護に尽くしておられる皆さまも是非とも緩和ケアまで気軽にご相談いただけましたら幸いです。

最後になりましたが、皆様の温かいご指導・ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

私たち 新任doctorです

呼吸器内科部
山口　哲平

藤田保健衛生大学病院から参りました。呼吸器悪性腫瘍（肺癌、悪性胸膜中皮腫、胸腺癌など）を専門としております。今まで培った経験を生かしながら、患者さんに適切な医療を提供していきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

呼吸器内科部
上村　剛大

現在まで呼吸器疾患のうち、特に肺がんの診断、治療について、研究と診療を行っておりました。本院は東海地方をはじめとして全国から肺がん患者さんが集まる施設であり、これまでの自分の知識、経験を生かして診療を行っていきたいと考えております。

臨床検査部
羽根田　正隆

愛知県がんセンター遺伝子病理診断部レジデントでの研修を経て着任いたしました。
次世代シークエンサーを用いた遺伝子病理診断に携わっております。
最新の科学的根拠に基づいた、患者様一人一人に合った最適な医療を提供できるよう努めて参ります。
どうぞ宜しくお願い致します。

形成外科部
成田　央良

大阪市立大学から参りました。
形成外科でピンとくる方は少ないのではないでしょうか。
手術などで生じた体外表の形状の変形や欠損を元の形、機能に近づける科です。患者様のQuality of life（生活の質）を高める手助けとなるように頑張りたいと思います。

乳腺科部
安立　弥生

４月より乳腺科に赴任しました安立弥生と申します。以前は、名古屋大学医学部附属病院乳腺内分泌外科に勤務しておりました。患者さんが不安なく検査、治療を受けられることを心がけながら、地域の診療に貢献していきたいと思います。宜しくお願い致します。

消化器外科部
檜垣　栄治

食道癌の外科治療を専門にしています。我々食道チームは地域の食道癌治療の中核病院であるという責任を持って診療に望んでいます。手術は、癌の広がりを考慮しながら、患者さまに負担の少ない胸腔鏡下手術を広く適応しております。さらに手術の定型化、根治性を追求した手術を実践しております。

整形外科部
林　卓馬

みなさんこんにちは。整形外科の林と申します。「整形外科が“がん”を診るの？」と思われる方も多いと思いますが、骨や筋肉などにも稀ですがんができます。そういった骨軟部腫瘍の数少ない専門家として、みなさんのお力になれるよう努めてまいります。

泌尿器科部
古澤　淳

この４月より泌尿器科の一員として勤めさせて頂くことになりました古澤淳と申します。泌尿器科専門医としての知識と臨床経験を生かし、患者さんとの対話を大切にしながら診療に従事できるよう全力を尽くしていく所存です。みなさまどうぞよろしくお願いいたします。

麻酔科部
小林　一彦

４月よりがんセンター中央病院に着任いたしました小林一彦と申します。
患者さんがお持ちの不安や苦痛を少しでも和らげることができるよう治療を担当させていただきたいと思います。
よろしくお願いいたします。

放射線診断・IVR 部
長谷川　貴章

元々レジデントとして勤務していましたが、４月よりスタッフとして採用されました。当部では、CTやMRIなどの画像を見て診断する事や、X線やCTを用いた画像誘導下の治療（IVR）を提供する事を専門としています。適切かつ低侵襲な治療を提供できるよう努力して参ります。宜しくお願い致します。

第6回中部地区がん医療連携学術講演会を開催しました

３月４日（土）、メルパルク名古屋において、近隣の医師会、歯科医師会、薬剤師会のご協力のもと、第６回中部地区がん医療連携学術講演会を開催しました。過去最多となる164名の先生方にご参加いただきました。

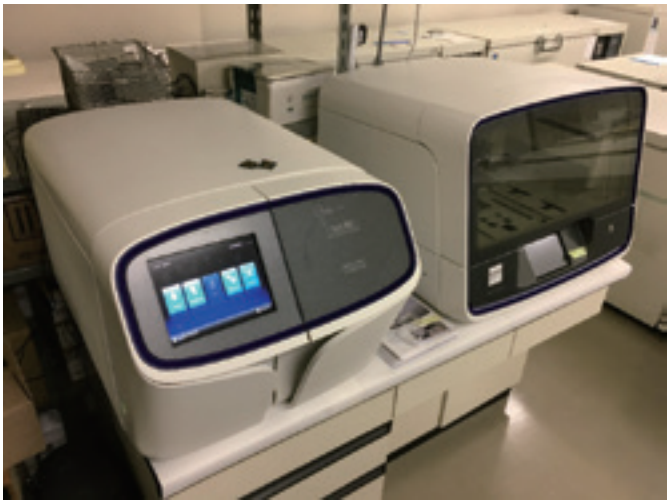
当院からの情報提供（「サルコーマセンター」「婦人科がんの手術戦略」「最近の乳がん治療」）に加え、「肺がんの最先端治療」についての特別講演が行われました。今後の診断治療における最新の情報や、当院の役割についてご案内できたのではないかと思っております。

また、講演会終了後には活発に意見交換が行われ、より連携を深めることができました。ご参加いただきました皆さまありがとうございました。

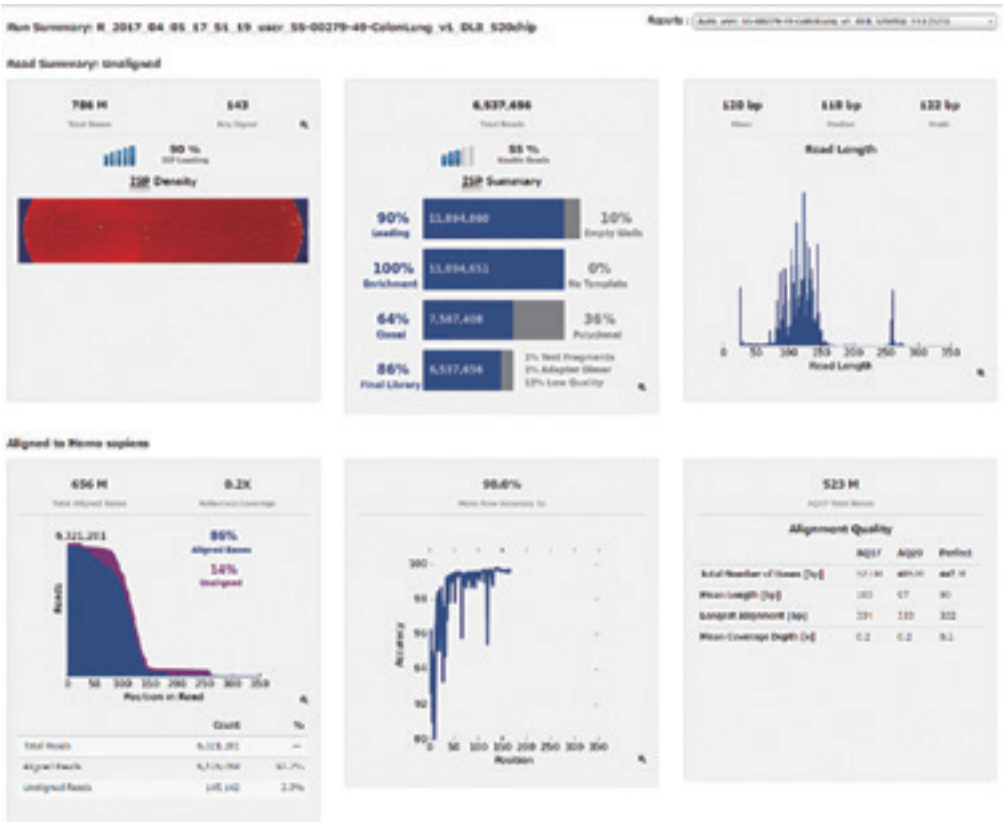
個別化医療センターを開設しました

個別化医療センター
センター長
谷田部　恭

ヒトの遺伝子が全て解読されたのは2000年でしたが、最近の腫瘍生物学の進歩は目覚ましく、現在はそれぞれの腫瘍の全ゲノムを調べることもできるようになりました。これらの結果をもとに多くの治療薬が開発され、一部の腫瘍では特定の遺伝子変異に対して高い効果を示す薬剤が開発されています。さらに、その薬剤が効かなくなってしまった場合に、遺伝子変異をさらに検討し、その効かなくなった原因をもとに治療を進める時代になってきました。そのため、これらの治療法選択の判断には、腫瘍における遺伝子解析が必須となっています。愛知県がんセンターは、これまでいろいろな腫瘍に対する遺伝子解析に長けた病院として知られており、それらの結果をもとにさまざまな遺伝子解析方法の開発、治療および治療法の開発を行ってきました。その一部は臨床検査センターに応用され、広く日本中で使われてきました。これらの実績を下に、2017年にはこれらの遺伝子解析を主体として行う部署が個別化医療センターとして独立しました。これまで用いてきた遺伝子解析技術に加え、最先端の次世代型シークエンサーによる解析も合わせ、より詳細な遺伝子解析を行う予定です。これまでと同様に、各診療科を通じ、治療に直結する先端的な医療の要として機能していきたいと思っています。



次世代型シークエンサー Ion Torrent S5 system



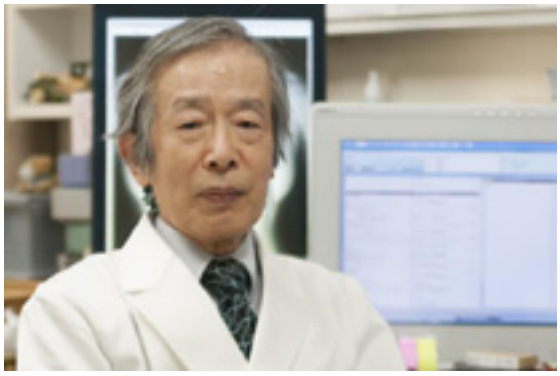
S5 system による代表的な遺伝子解析結果

患者さん、登録医、がんセンターをつなぐホットな１頁

とうろく医探訪 No.3

Produced by
地域医療連携・相談支援センター

医療法人 光が丘内科クリニック　院長：尾山　淳 先生



『愛知県がんセンターを想う』

がん治療の最先端病院として開院して４年半後の昭和４４年に、学園紛争の影響があったため最若手として赴任いたしました。始めは呼吸器内科に所属、診療のほかに外科の先生と全麻下での硬性気管支鏡検査も行なっていました。その後、血液・化学療法内科に移り、19 年間がん治療の勉強をさせていただきました。３４年の勤務医生活ののち、がんセンターの北 1.3ｋｍの地にて内科を開業いたしました。近距離であることからがんセンターに紹介することが多いのですが、患者さんの満足度は非常に高いです。

紹介するのに支障となっていた病診連携室は、昨年、関係者の努力で大きく改善され、気持ちよく紹介することができるようになりました。

隔月に開催される呼吸器疾患の症例検討会は毎回楽しく勉強させていただいていますが、周知されていないため出席者は多くありません。このような院内で行われる症例検討会の予定を千種、名東、守山および希望される会員に案内していただければと思います。

私自身、平成元年に愛知県がんセンターで治療を受けた身であり、人一倍強い思い入れを抱いております。今まで以上に信頼されるがんセンターになっていただければと願っています。

【医療機関情報】

医療法人　光が丘内科クリニック

診療科目／内科、小児科、呼吸器科、アレルギー科

電　　話／052-725-3337

所 在 地／464-0006
名古屋市千種区光が丘１丁目 16-20

ＵＲＬ／www.hikarigaoka-naika.com

	診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前	9:00-12:00	○	○	○	○	○	○	／
午後	4:00-7:00	○	○	／	○	○	／	／

★基幹バス路線、汁谷交差点南

編集後記：第３回は千種区の光が丘内科クリニック、尾山先生です。患者さんへ丁寧な説明をするための電子カルテ配置など細やかな配慮を感じるとともに、夏にはクリニックに生い茂るゴーヤのカーテンが気持ちを和ませてくれます。これからもよろしくお願いします！<Y.SANO>

がんの新たな治療標的分子を探索しています

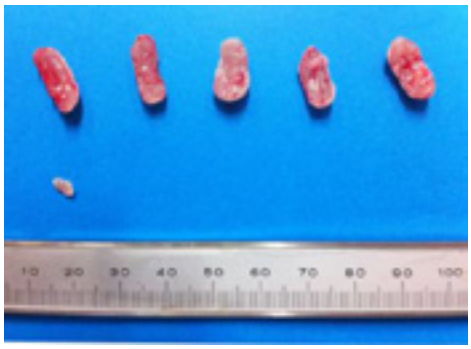
研究所～感染腫瘍学部～

感染腫瘍学部長
小根山　千歳

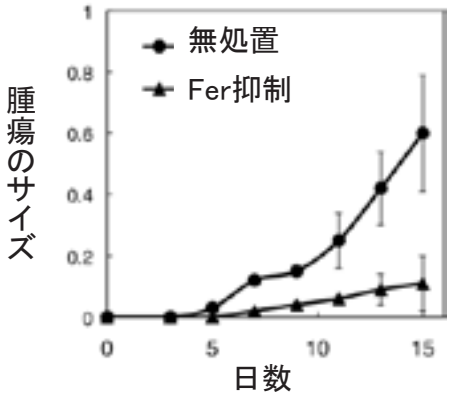
私たちの体をつくる細胞は、体内で適切に増えたり移動したりする必要があります。その制御のため、正常細胞内では様々な分子の間で信号（シグナル）のやりとりが行われています。しかしそこに異常が起きると、細胞が無制限に増殖し（発がん）他の場所に勝手に移動する（転移）といったがん特有の性質を獲得します。

私たちは、がんの進行と共に量が多くなり働きも強くなるSrcという分子に着目し、Srcが発信するシグナルをFerという分子が受信していることを見つけました。Srcは他の分子にリン酸化という目印を付けることでシグナルを伝えますが、FerはSrcによって付けられたその目印を自身でさらに増やし、強いシグナルを別の分子に伝えることができます。実際、Ferの働きを抑えたがん細胞は腫瘍を形成する能力がほとんどないことがわかりました（図）。またFerは多くの大腸癌患者さんにおいてがんの組織でだけ活発に働いていました。私たちは、Ferなどがん特有の異常な分子を探し、それが実際のがんで本当に大事なのか、薬の標的として適切かといったことを調べ、次世代の診断・治療法の手がかりを見つけることを目指しています。

(A)



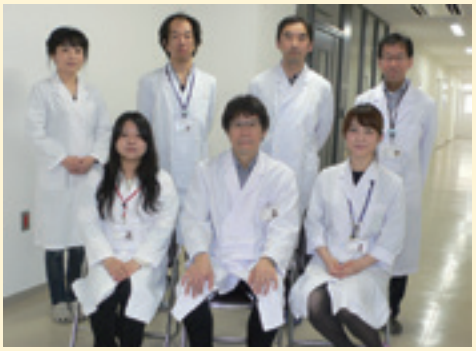
(B)



【図の説明：Fer 遺伝子の発現抑制によるがん細胞の造腫瘍能の抑制】
（A）がん細胞をマウスに移植して形成される腫瘍の写真
（B）Ferを抑制すると時間が経過しても腫瘍がほとんど成長しません

研究員の紹介 ◆ 中央実験室

中央実験室では現在、室長１名（兼務）、研究員１名、技師２名、再任用職員１名、非常勤嘱託員２名のスタッフで、研究所全体の研究活動や臨床研究を円滑に進めるのに必要な種々のサービス業務を行っています。具体的には、１．共同利用機器の整備と維持･管理、２．RI 実験施設の維持･管理、３．毒物･劇物の管理にかかわる業務、４．セキュリティーシステムの維持・管理などが含まれます。また、各部門と協力して研究活動も行っています。



写真：前列左から、西田技師、青木室長（兼務）、中井技師
後列左から、篠原嘱託員、奥本嘱託員、組本研究員、
箕浦再任用技師

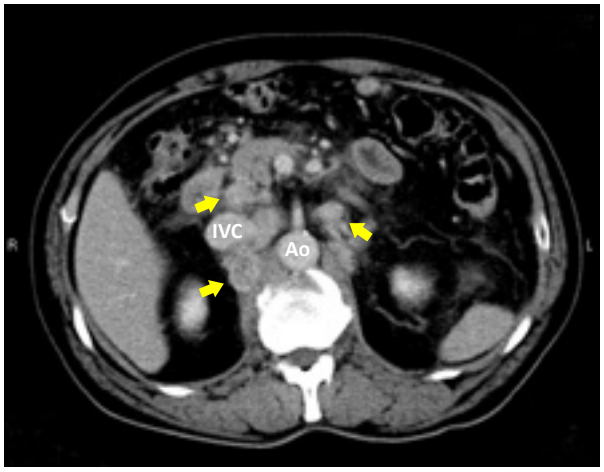
切除不能胃がんに対するコンバージョン手術

中央病院～消化器外科部～

手術部長
兼消化器外科部 医長
伊藤　誠二

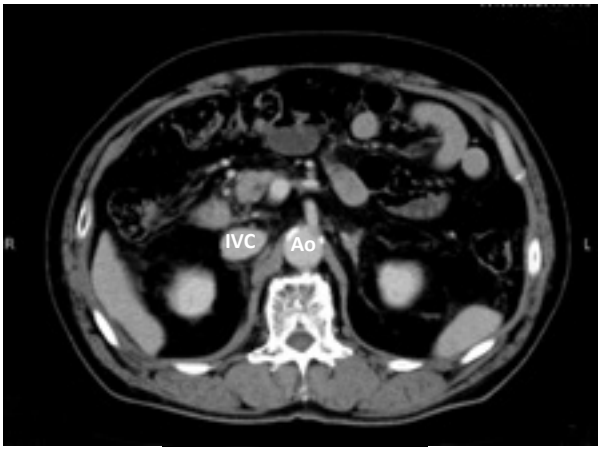
胃がんに対して、目に見えるがんをすべて取りきれると判断される場合には、胃がんの病変を、周囲のリンパ節とともに切除する胃切除術がもっともよい治療法です。一方、通常切除する範囲を超えた部分にまでがんが及んでいる場合には、抗がん剤による治療、すなわち化学療法が行われます。最近では、胃がんに対する化学療法の進歩とともに、化学療法が著効し、治療開始時には切除不能と判断された患者さんでも、手術が可能となる患者さんが出てきました。このような手術を、化学療法から手術に方針を転換する、という意味で、コンバージョン手術、と呼びます。写真に示したのは、大動脈と呼ばれる太い血管のまわりに、累々とリンパ節が腫れていて、この時点では切除不能と判断された患者さんの腹部CT写真です。化学療法を行うことにより、リンパ節がほぼ消失し、目に見えるがんをすべて取り切る、根治的な胃切除術を行うことができました。この方は、手術後２年半経過しましたが、今も元気に外来に通って頂いています。当院では、診断を専門とする内視鏡部、化学療法を専門とする薬物療法部、手術を専門とする消化器外科部が協力しながら、診療に当たっています。

化学療法開始前



Ao : 大動脈　IVC : 下大静脈　矢印 : リンパ節転移

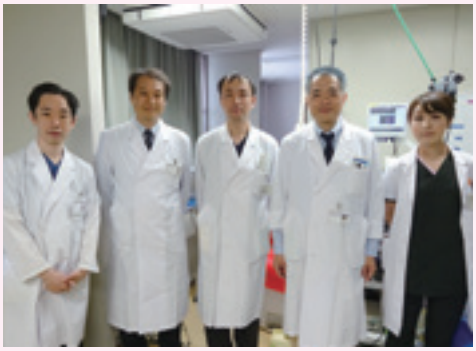
手術前



Ao : 大動脈　IVC : 下大静脈

診療医の紹介 ◆ 中央病院～内視鏡部～

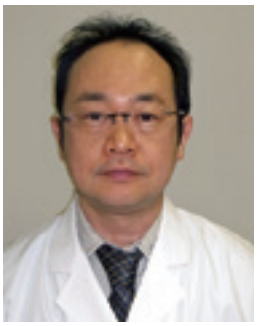
内視鏡部は、スタッフ５名でおもに食道・胃・大腸の消化管がんの診断・治療を担当しています。検査は消化器内科部の医師と協力して行っています。内視鏡検査はハイビジョン化や画像強調観察などの技術革新で、より正確ながん診断が可能となりました。また、低侵襲治療である早期がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）は、より安全により早く行えるようになり、年間200件以上行っています。我々は最良の機器と技術を用いて、苦痛の少ない安全で最適な診療を心がけています。



写真：左から、平山裕医長、田中努医長、石原誠医長、田近正洋部長、大西祥代医長

リンパ浮腫治療の取り組み

中央病院～形成外科部～



形成外科部長
兵藤　伊久夫

がん手術に伴うリンパ節郭清や放射線治療後に、リンパ浮腫を発症することがあります。リンパ浮腫が進行すると、患肢のだるさや屈曲しづらいなどの症状や、蜂窩織炎を併発することがあるなど日常生活の質を損ないます。

リンパ浮腫に対する治療は、「複合的治療」と「外科的治療」があります。

「複合的治療」とは、用手的ドレナージ、圧迫療法（弾性スリーブ・ストッキング・弾性包帯）、圧迫下の運動療法、スキンケアといった保存的治療を組み合わせて行うことです。また外科手術には、リンパ管静脈吻合術やリンパ節移植術などがあります。

リンパ管静脈吻合術とは、皮下にあるリンパ管（リンパ管の太さは１mm以下）と静脈を顕微鏡下に吻合し、貯留したリンパ液を静脈に還流し、浮腫を軽減する術式です。当院では、複合的治療を十分行っているが蜂窩織炎を繰り返す患者さんなどを対象に手術を行っています。術後は、引き続き複合的治療を行う必要があります。

形成外科医と看護師による専門チームが、外来および入院診療に取り組んでいます。（リンパ浮腫外来　毎週　火・木曜日；午前　医師診察、午後　看護師による複合的治療指導）

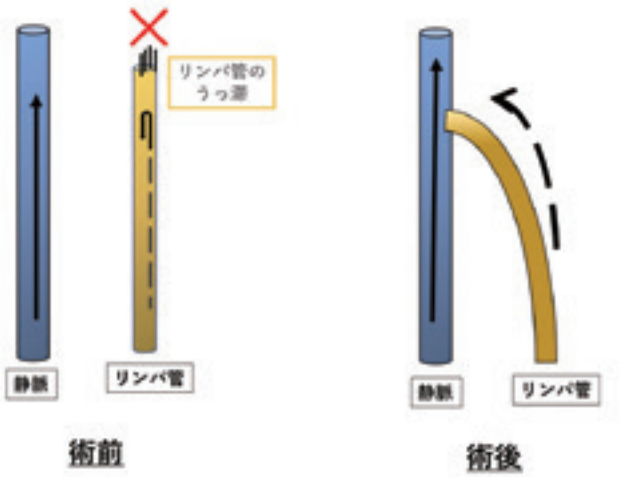


図１；リンパ管静脈吻合術；うっ滞したリンパ管を静脈に吻合することで、リンパ浮腫を軽減します。

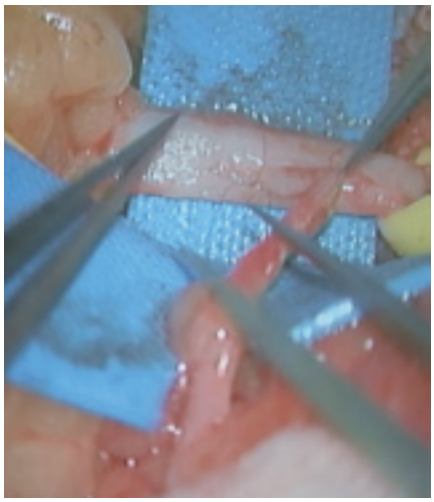


図２；顕微鏡下にリンパ管と静脈を吻合しているところ

スタッフの紹介　◆　中央病院～薬剤部「指導科」～

こんにちは、薬剤部です。今春、薬剤部は新たに薬剤師となったフレッシュマン等を加えて薬剤師33名となり、また組織も「指導科」が新設され、「薬務科」「調剤科」と合わせ３科体制となりました。

「指導科」には薬剤師８名が配属され、これまで薬剤師が十分に係われなかった入院患者さんの治療に医師、看護師らのチームの一員として加わっていきます。

今後、薬剤部の３科が一丸となって入院、外来患者さんへの指導を充実させ、安全かつ効果的な薬物治療を支えていきます。

写真：前列左から、伊藤裕子主任専門員、松崎雅英指導科長、水野靖也薬剤部長、長谷川真照薬剤師、石川梨耶主任
後列左から、前田美恵子主任、栗原幸司薬剤師、金涌えり薬剤師、徳永素子主任

愛知県がんセンター中央病院では、患者さんにより快適なサービスを提供するため、外来患者さんや入院患者さんのご協力をいただき、平成28年12月７日から８日にかけて「患者満足度調査」を実施いたしました。その結果をお知らせいたします。

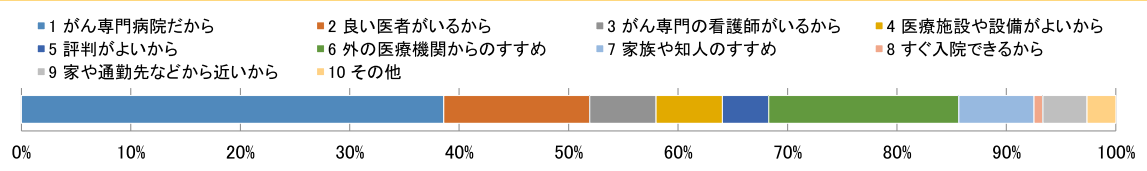
“患者満足度調査”から見えること【入院】　～今後の改善に向けて2016～

入院部門

総合評価　平均	86.9 点	（100点満点中）

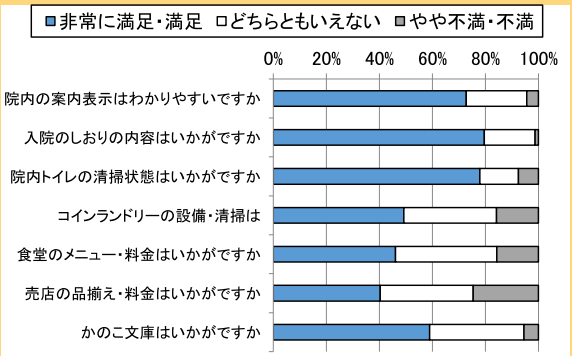
配布枚数	293 名	
有効回答数	242 名	（82.6%）

(1) 当院の選択理由は

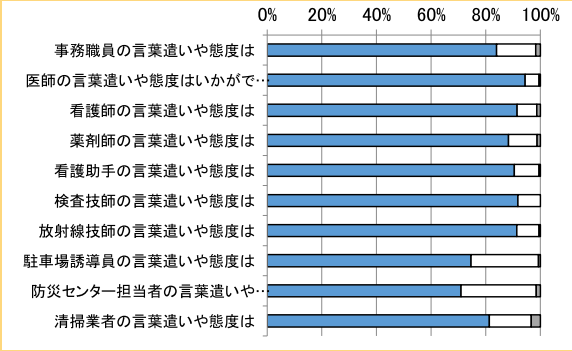


(2) 院内環境

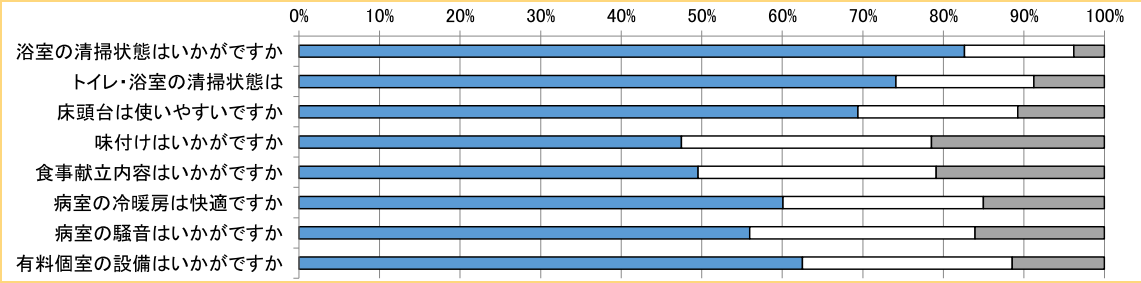
1.施設



2.スタッフの対応

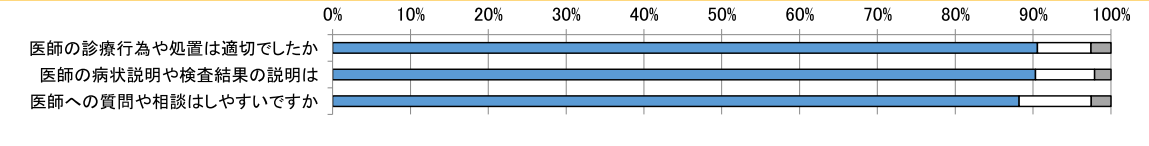


3.病室環境

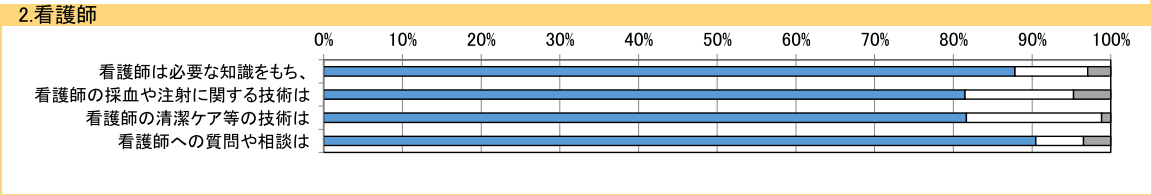


(3) 診療サービス

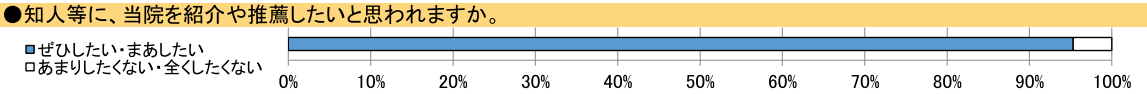
1.医師



2.看護師



●知人等に、当院を紹介や推薦したいと思われますか。



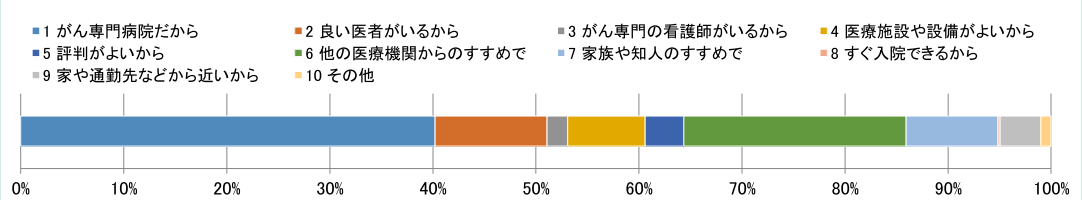
“患者満足度調査”から見えること【外来】　～今後の改善に向けて2016～

外来部門

総合評価	平均	85.9 点	（100点満点中）

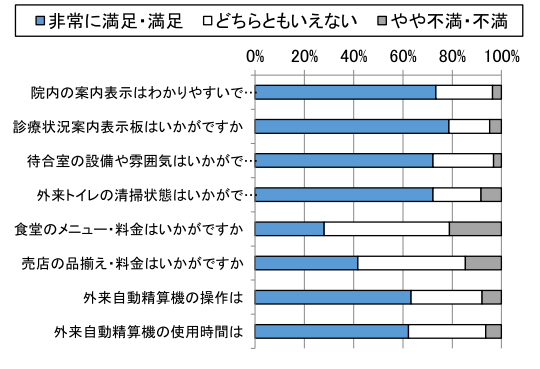
配布枚数	300 名	
有効回答数	263 名	（87.7%）

(1) 当院の選択理由は

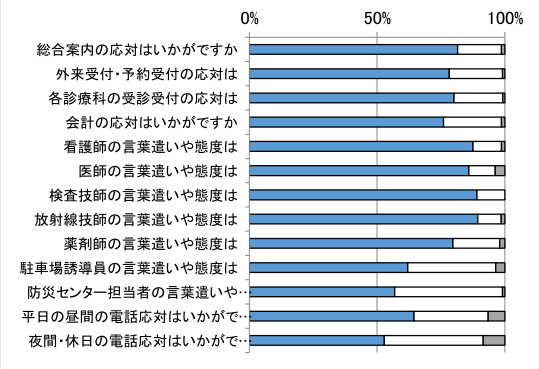


(2) 院内環境

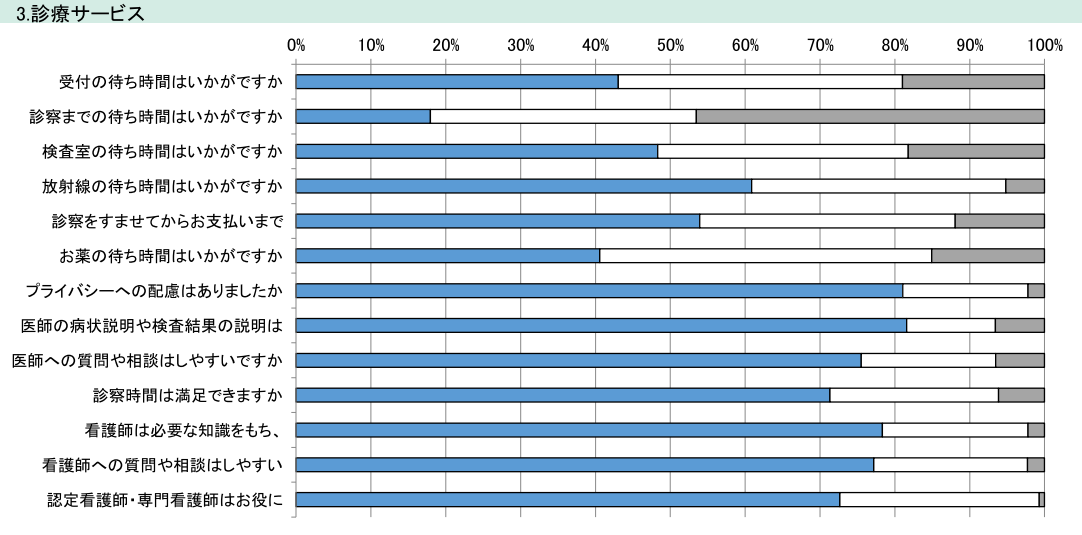
1.施設



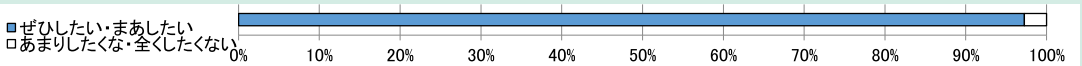
2.スタッフの対応



3.診療サービス



●知人等に、当院を紹介や推薦したいと思われますか。



患者満足度調査にご協力いただきありがとうございました。昨年に比べ、入院・外来とも総合評価点数が高くなっており、中でも職員の対応は概ね高評価を頂きました。しかしながら、施設面特に「食堂のメニュー・料金」「売店の品揃え・料金」におきましては、満足して頂ける結果ではありませんでした。業者との話し合いを継続し、利用し易い食堂や売店となるよう努めてまいります。また、外来部門では、待ち時間の改善を望む声をたくさん頂きました。受付や診察、検査までの時間が少しでも短くなったと感じていただけるよう改善策を検討し実践してまいります。

最後に、今回ご協力をいただいた多くの患者さんが、「知人等に当院を紹介や推薦したい」とお答えいただきました。そのご期待を裏切ることのないよう今後も安全で安心して頂ける診療サービスの提供に職員一同取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（H28患者サービス委員会委員長　林美子）

新春 木遣り唄・お笑いマジックショーを開催しました

1月6日（金）に、ボランティアによるイベントが国際医学交流センターで開催されました。少しでも患者さんやご家族の気持ちを和らげることができたらという思いから開催のはこびとなりました。木遣り唄では力強い歌声が、マジックショーでは笑いが届けられ、それぞれ楽しいひとときを過ごされていました。

医療連携室のご案内

対応時間	月曜日～金曜日　**午前9時00分～午後7時00分** **土曜日　午前9時00分～午後1時00分** （祝日、年末年始を除く）
電話	052－764－9892　（直通）
FAX	052－764－9897　（24時間稼働しております。）
ホームページ	http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/ 中央病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。 利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

外来診療案内

受付時間	**午前8時30分～午前11時30分**（自動再来受付機による受付は午前8時からできます。）
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、緩和ケア科（精神腫瘍科・リンパ浮腫外来・ペインクリニック）
外来診療担当医一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911（直通）午前9時～午後5時（土・日・祝・年末年始を除く）
※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。（完全予約制・自由診療）
※精神腫瘍科は、予約のみの対応です。

交通のご案内

★公共交通機関のご案内

地下鉄利用　名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分
市バス利用　基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩4分

★車でのアクセスのご案内

◎一般道路

本山交差点から北へ約10分、平和公園の北西

◎高速道路

東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分
名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。

愛知県がんセンター　Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963
〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号　ホームページ http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/

愛知県がんセンター　検索

がんセンターNEWSは古紙配合再生紙を使用しています。